

令和5年度第1回厚木市子ども育成推進委員会会議録

日時 令和5年7月4日（火）午後2時00分から午後3時40分まで

場所 本庁舎5階第一委員会室

出席者：子ども育成推進委員8人、こども未来部長、こども育成課長、こども政策係長、こども政策係担当者、保育課長、保育認定・給付係長、保育施設係長、子育て支援センター所長

傍聴者：なし

委員10人中8人出席（過半数）により会議は成立。

会議の経過は次のとおり。

1 開会

こども育成課長

2 委嘱式

山口市長から委嘱状交付及び挨拶

3 委員の紹介

委員及び事務局自己紹介

4 委員長及び職務代理の選出について

委員会規則第5条に基づき、委員長に山本聡委員、職務代理に宮田幸紀委員を選出。

5 案件

(1) あつぎ子ども未来プランについて

ア 令和4年度個別事業実施結果について

事務局から資料に基づき説明

【質疑等】

委員：個別事業15「コミュニティ・スクール推進事業」は設置校を指標としているが、内容的なものに指標を変更した方が良いのではないかと、また予算の主な用途は何か。

事務局：指標については、委員の意見を担当課に伝え検討いただく。今後の指標設定については、次期プラン策定に向け推進委員会の中で、その指標が事業の進捗を図る上で適正かどうか協議を進めていただきたい。また予算の主な用途は委員報酬となっている。

委員長：時期プラン策定に向けての検討としたい。

委員：個別事業46「地域子ども教室推進事業」は市内23小学校の内、事業対象校が21校となっているが、2校が対象外なのは何か。

事務局：2校については「放課後子ども教室推進事業」が実施されており、類似事

業であることから、地域子ども教室推進事業の対象外となっている。

委員：事業対象者となる子どもは同じであるが、それぞれの事業に需要があるため、事業ごとに分けるのではなく、両事業の実施はできないか、また、放課後児童クラブも連携して実施できないか。

事務局：類似する事業について整理し、各事業の利点を活かしたうえでの統合を検討していく。

委員長：厚木市で213事業行われているが、それぞれの事業でも同様の検討をすることで、人員不足や事務の軽減も図れ、より事業として洗練されてくる部分もあると思う。前向きに検討を進めてもらいたい。

委員：個別事業64「不妊治療費助成事業」は保険適用となったことから事業が終了となっているが、様々な治療方法が出てきている。このような新たな保険適用外の治療について検討していただくことは可能か。

事務局：治療に当たるものと当たらないもの様々な方法が出てきていることは承知している。今後も情報収集に努め、事業化を検討する際には参考としたい。

委員長：治療に当たるのかというものもあるが、少子化対策の観点からも、前向きに検討いただけるとありがたい。

イ 子ども・子育て支援事業計画実施状況について

事務局から資料に基づき説明

【質疑等】

委員：3号認定子ども1～2歳児について量の見込み（実績）が1,377人に対し確保方策（実績）が1,235人となっているが、待機児童は0人となっているのは何故か。

担当課：実績としては142人となっているが、これは定員に対しての数字であり、定員を超えて受け入れを行っていることから、待機児童は0人となっている。

委員：質問ではなく意見であるが、少子化を実感している。厚木市では施策として保育園に偏らず、幼稚園への入園を促す取組みを行っていることで、利用希望がある家庭のニーズに答えることができている。今後も継続することで、子ども達にとっても良い環境を維持できると思うので、継続をお願いしたい。

事務局：各施設で特色を活かした運営を行った上で、それぞれのニーズに答えていきたいと考えている。

委員：国からは様々な施策が示されてきているが、現場では対応に苦慮している点も多くある。そういった実情についても承知しておいていただきたい。

委員長：それぞれの立場でご意見をいただいた。幼稚園は文部科学省、保育園は厚生労働省の管轄となっており、対応に難しい点もあると思うが、自治体では今後も前向きな対応を続けていただきたい。

(2) あつぎ子ども未来プラン（第4期）の策定について

事務局から資料に基づき説明

【質疑等】

委員：今年度の調査項目に子ども会に関する内容を盛り込みたいが、可能か。

子ども会の加入率低下の原因がどこにあるのか、事業内容がニーズとあっているのか等を探りたいと考えている。

委員：子ども会の問合せ先がわからなかったのと、子どもが忙しく参加するタイミングがつかめなかったので、入会しなかった。

委員：学年が上がるにつれて、子どもたちは習い事等で忙しくなる。土曜日に行う学校行事も参加できない児童もいる。

委員：子ども会の役割の一つであった縦年齢のつながりや、自主性をもって動くことを学ぶ場が少ないと感じる。

委員：子ども会に入っていたが、欠席が多くなってしまい退会した。

委員：子ども会が、子どもの居場所の選択肢を広げる1つとなってほしい。

委員長：まずは、どういうものなのか体験してもらうのも必要ではないか。

「参加してみたら面白かった。」となるよう、子ども会側から子どもたちに接近してみるのもよいと思う。

事務局：ニーズ調査の項目については、今後委員の意見聴取を予定している。内容的に問題ないと思うが、推進委員会の中で決定をいただきたい。

6 その他

事務局から年間会議の開催予定等について説明

7 閉会

山本委員長あいさつ

以上